

# トレースとの PIMG 統合

## 目次

[概要](#)

[トレースの有効化](#)

[トレースの開始と収集](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Technical Assistance Center ( TAC ) で問題をトラブルシューティングするときに Unity Connection および PBX IP メディア ゲートウェイで有効にする最も一般的なトレースについて説明します。問題をトラブルシューティングする際、または TAC ケースをオープンする前に、プロセスのスピードを上げるためにこれらのトレースを有効にすることができます。

## トレースの有効化

Unity Connection でトレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Unity Connection Serviceability に移動します。
2. [Trace] > [Macro Traces] の順に選択します。
3. [Call Control (Miu) Traces] を展開します。
4. [For SIP Systems] チェックボックスをオンにします。

次に、PIMG/TIMG ( T1 IP メディア ゲートウェイ ) でトレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. PIMG/TIMG で、管理インターフェイスに移動し、[Diagnostics] > [Trace/Logging] の順に選択します。
2. [Trace] の横の [Configure] をクリックします。次のトレースをオンにすることをお勧めします。電話 : [Event] チェックボックスをオンにします。VoIP : [Prot] チェックボックスをオンにします。Adept : 呼処理 ID ルールをトラブルシューティングする場合は、[ALL] チェックボックスをオンにします。SI : 設定でシリアルケーブルを使用していて、最初のグリーンディングまたは正しいメールボックスに到達するコールで問題が発生している場合は、[ALL] チェックボックスをオンにします。
3. [Submit] をクリックします。

これで、問題を再現できるようになります。問題を再現する際は、時刻、発信者番号、および着信者番号をメモします。また、発生した問題について十分に説明できるよう準備します。

# トレースの開始と収集

PIMG/TIMG でトレースを開始して収集するには、次の手順を実行します。

1. PIMG/TIMG で、管理インターフェイスに移動し、[Diagnostics] > [Trace/Logging] の順に選択します。
2. [Trace] の横の [Start] をクリックし、コールがボイスメールに転送されると予測する、十分な時間の経過後にテスト コールを発信します。
3. [Stop] をクリックします。
4. [Download] をクリックして、トレース ファイルを取得します。

この同じ期間中に記録されたトレース ファイルを Unity Connection から収集するために、次の手順を実行します。

1. Real Time Monitoring Tool ( RTMT ) を開きます。
2. [Trace & Log Central] に移動します。
3. ファイルを収集します。
4. Conversation Manager に接続します。
5. [Next] をクリックします。
6. もう一度 [Next] をクリックします。
7. [Collection Time] で、テスト時間に合わせて時間範囲を調整します。
8. [Download File Options] で、[Download File Directory] を特定しやすいディレクトリに変更します。
9. [Finish] をクリックします。 Unity Connection Server の名前が付いたフォルダにファイルがダウンロードされます。

## 関連情報

- [Dialogic Service Center](#) : この Web ページで記事を閲覧するには、登録してからログインする必要があります。
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)